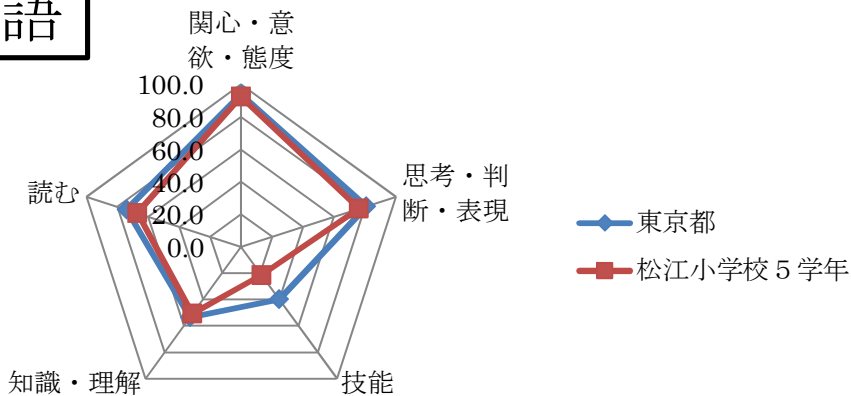
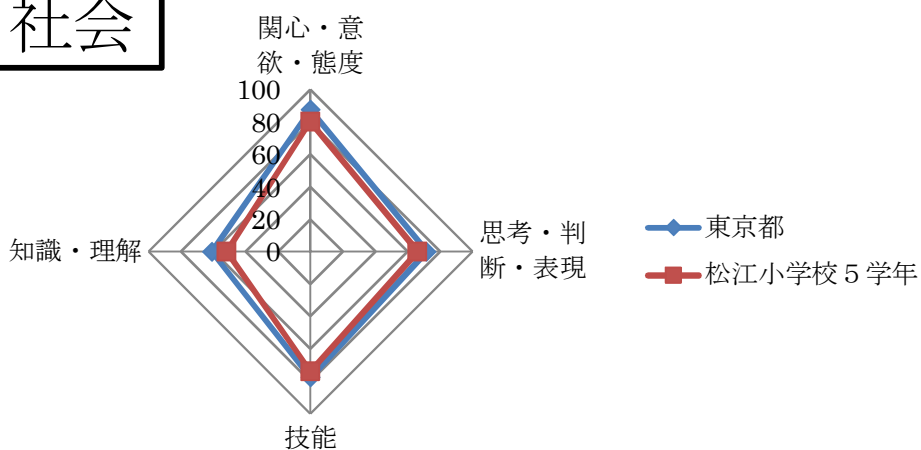


平成30年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」

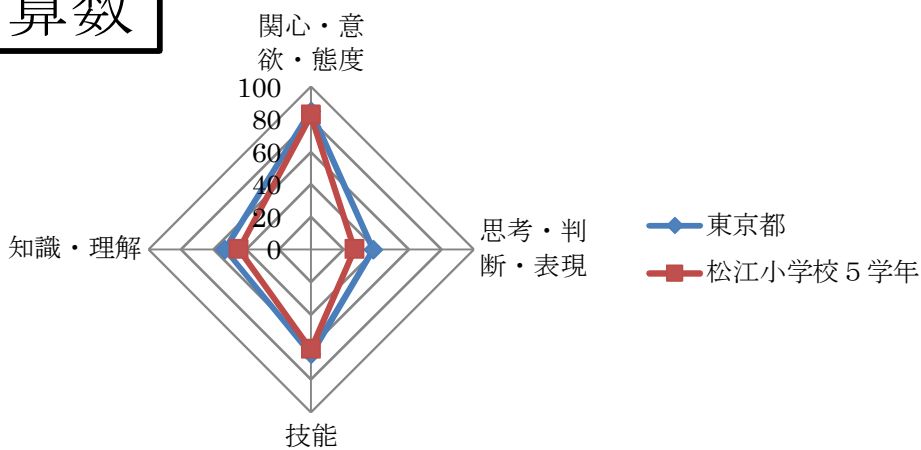
国語



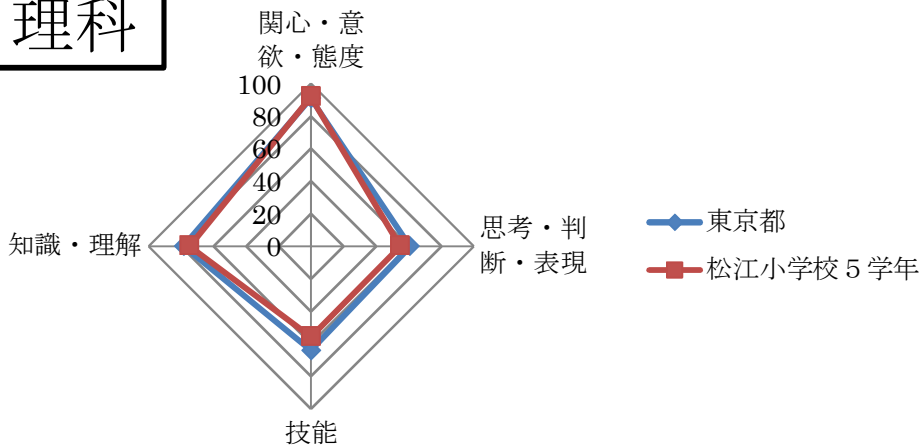
社会



算数



理科



《結果と考察》

国語においては、[話す・聞く]、[書く]、[読む] の項目で東京都の平均を下回った。特に [書く] の項目は大幅に下回っている。算数においては、[思考・判断・表現]、[技能]、[知識・理解] の項目で東京都の平均を下回った。特に [思考・判断・表現] の項目は大幅に下回っている。社会においては、[関心・意欲・態度]、[思考・判断・表現]、[知識・理解] の項目で東京都の平均を下回った。理科においては、[思考・判断・表現]、[技能] の項目で東京都の平均を下回った。[関心・意欲・態度] の項目は、社会以外東京都とほぼ同じ数値になっている。

昨年度のベネッセ学力調査の結果は国語・算数ともに全国平均より10%ほど低かったが、今回は国語・算数ともに5～6%下回る結果となっており、昨年度より継続して取り組んできたことが少しずつ実を結んできている様子が見られる。更なる学力向上に向けて、以下の取組を行っていく。

① 授業における指導法の工夫

- ・課題解決的な学習展開による授業
- ・学習内容を自分でノートにまとめる活動

② 学校体制での学力アップに対する取組

- ・学力アップタイム
- ・補習の取組

③ 家庭学習による家庭との連携

- ・年間3回の家庭学習キャンペーン
- ・ベネッセ学力調査に向けた、基礎問題の反復練習

《改善に向けて》

1. 国語

- 「いつ」「どこで」「だれが」「何を」などの場面設定を捉えて文章読解をさせたり、叙述を基にして登場人物の気持ちを想像させたりする。問題に繰り返し取り組ませる。
- 大事な言葉に線を引くなど、ポイントを押さえて答えたり、まとめたりすることを意識させる。
- 漢字の学習に繰り返し丁寧に取り組み、覚えた漢字は普段から使うという習慣を付ける。
- 分からない言葉を辞書で調べる活動を取り入れる。

2. 社会

- 「資料から情報を正確に読み取る力」を高めるために、授業で資料を多く取り入れ、児童が必要な情報を取り出せるように、5W1Hの視点から、具体的な発問や指示を行う。
- 「比較・関連付けて読み取る力」を高めていくために、資料から取り出した情報について、それぞれの「共通点」「相違点」「つながり」を考えさせる。
- 単元が終わるごとに学習内容をノートにまとめ、資料活用の力を身に付けさせる。

3. 算数

- 問題解決学習を基盤にした学習を展開する。「問題の理解」「解決の計画」「解決の実行」「解決の検討」「まとめ」という学習過程を実践していくことで、主体的に問題に取り組む力を身に付けさせる。
- 具体的操作活動を行い、図や式にするきめ細やかな指導を行っていく。
- 学び合いの指導の工夫を行うことで、児童が「できた」「分かった」という実感が高まるようにする。
- 「東京ベーシックドリル」を繰り返し活用し、基礎基本の定着を図る。

4. 理科

- 学習内容と日常生活の中の自然現象とを結び付けて考えさせ、知識・理解の定着を図る。
- 「問題」「仮説」「実験」「結果」「考察」「結論」という問題解決の過程を基盤とした授業展開を行い、児童が主体的に考え、問題を解決する態度を身に付けさせていく。
- 実験器具の使用方法を、単元ごとに繰り返し指導して、身に付けさせていく。

5. 共通

- 「東京ベーシックドリル」「松江マスターテスト」を活用する。月1回の学力アップタイムを活用して、全校で取り組み、習熟が十分でない児童に対しては補習を通して確実に身に付けられるようにする。
- 保護者会資料で学力調査の結果について説明し、課題を伝えるとともに、今後の目標設定を明確にする。家庭との連携を深めて、家庭学習の充実を図る。
- 各学年の各教科における基礎基本を明確にし、家庭と連携しながら徹底を図る。また、「松江マスターテスト」「マスター検定」を実施し、既習事項の定着を確実にする。